

vol.71

2022.11 甲府西高情報誌

山梨県立甲府西高等学校
Kofu Nishi High School

西高のステージへ!



nstage

Running through All Your Might

～全力で駆け抜ける～





START

登校
(~8:30)



SHR
(8:35~8:45)



文系・英語の授業
より深い知識を身につけ受験対策

1時間目
(8:55~10:00)



理系 生物の授業
演習を通して身につく応用力

3時間目
(11:25~12:30)



化学の授業
実験を通して身につく思考力

昼休み
(12:30~13:10)



4時間目
(13:10~14:15)



IB美術の授業
ALTとの対話から生まれる共有意識

5時間目
(14:25~15:30)



ディスカッションで身につく表現力

掃除
(15:35~15:50)



自習室を活用して集中力UP!

放課後
(学習・部活・下校)



SEIICHIRO SHIMAMURA

西高では、高い意識を持った仲間と優しき寄り添ってくれる先生方が充実した環境を形成してくれます。個人に合わせた課題設定をしてくれたり生徒の意見を尊重してくれたりするリベラな校風が西高の最大の魅力です。私は大学受験に向け日々勉強に励む一方で、部活動(水泳)との両立にも精を出しています。西高での学びを胸に将来はグローバルに活躍できる人材になりたいです。

NATSUKI FUKASAWA

失敗を恐れず挑戦出来るのが西高の魅力です。私は野球部のマネージャーをするという大きな挑戦をし、これが今、私の自信に繋がっています。西高は自分を好きになるきっかけを見つけることが出来る学校です!また、学習面では、ICT活用で効果的な質の高い学習ができ、有効に活用する情報活用能力が身に付きました。

西高の魅力~推しポイント!~



2年 島村 晟一朗(梨大附属中出身)

2年 深澤 夏月(梨大附属中出身)

2年 末木 杏也采(敦島中出身)

2年 武田 泰幸(双葉中出身)

YASUYUKI TAKEDA

西高の探究活動(鳳凰学)は、「問を立てる」ことから始め、研究内容や方法を自分で設定できる自由度の高さがあるため、探究意欲が向上できます。私は今、「捕鯨」について「クジラの養殖の実現は捕鯨問題の解決になるだろうか」という問いを立てて研究を行っています。また、西高は多種多様な部活動があり、兼部が可能なので、興味関心に合わせて選択できる環境が整っているのも魅力です。

AYANA SUEKI

西高の大きな特徴のひとつは65分授業です。実験、研究、討論、発表などを通して、より深く主体的に学ぶことができます。また、勉強面と部活動、生徒会活動、趣味などを上手に両立し、高い目標を持った仲間と良い刺激を与え合える環境があります!私はこの恵まれた環境の中で、将来の夢に向かって日々充実した生活を送っています。

体育祭(9月30日)

前期最後の日に秋季体育祭が開催されました。例年は、球技大会ですが、今年度は体育祭として生徒会が中心となり企画しました。綱引きや年次対抗の玉入れ、障害物、借り人競争やリレーを行いました。年次を越えた学校全体での団結がさらに高まり、気持ちのいい汗をかいた秋晴れの一日でした。



2年次:障害物競争



1年次:玉入れ



3年次:借り人競争



全校:綱引き

第6回山梨県高校生英語ディベート大会優勝

本校より、国際教養部(前ESS部)の2年生4名が出場し、優勝を果たしました。全国大会に出場します。



私たち国際教養部は第6回山梨県高校生英語ディベート大会で優勝し、第17回全日本高校生英語ディベート大会への出場権を得ることができました。「日本政府は定年制度を廃止するべきである。是か非か。」という難しいお題であったからこそ、メンバーと協力し準備ができたと思います。部員一同優勝でき安心しましたが、全国上位を目指しこれからも頑張っていきたいです。指導してくださった先生方、大会に携わってくださった皆様、本当にありがとうございました。国際教養部 部長 2年 武田 輝幸(双葉中出身)

健康の森ウォーキング大会(10月12日)

快晴の朝、「健康の森ウォーキング大会」が3年ぶりに開催されました。今年は安全面を重視し、全員徒歩での参加としました。生徒それぞれが楽しみながら、満喫した日を送っていました。大会に御協力頂きました保護者の皆様にも感謝申し上げます。



芸術鑑賞会「ネズミの涙」(10月5日)

YCC文化ホールにおいて、芸術鑑賞会が開催されました。恵まれた環境に感謝し、平和について考えさせられました。



戦争はなぜ行われるのか。この演劇を見て、ふと考える。戦争で家族を失った登場人物、マンガは「戦争は一部の権力者のために行われ、一般人は苦しむだけ」と述べた。これは今のウクライナ戦争に繋がる。上からの命令や領土や誇りを守るために戦っている。互いに傷つけあいたくないはずなのに。同じ人間同士なのに。ここに人間の愚かさや如実に表れていると考える。戦争と人間の愚かさについて考える機会をくださったこんにやく座の方々に感謝したい。3年 石原 和真(白根巨摩中出身)

第48回UTY教育美術展

県内88の小学校・中学校・高等学校・支援学校から900点以上の作品の応募の中、5名が入賞を果たしました。



【文部科学大臣賞】 2年 加賀美 葵(甲西中出身)

【テレビ山梨賞】 3年 古屋 すずの(梨大附属中出身)

【佳作】 3年 饗場 由梨(北中出身)/2年 望月 咲良(市川中出身)
2年 淵上 真帆(富竹中出身)

この度は、文部科学大臣賞を頂戴し、大変光栄に思います。タイトルの「糸」という言葉は、「綿や繭の繊維を引き出し合わせて糸を作る」という意味から転じて「言葉を紡ぐ」「歴史を紡ぐ」「未来を紡ぐ」のような比喩表現で用いられます。この言葉を基にコロナ禍で変容しながらも受け継がれていく伝統や人の想いの力強さを表しました。今回の結果に満足することなく、沢山の作品に触れながら更なる高みを目指していきたいです。

加賀美 葵

全国高等学校総合文化祭

東京都で総文祭が開催され、西高生が5部門に出場しました。



合唱部門(音楽部)
山梨県合同合唱団
として参加



新聞部門(新聞部)
部長 2年 田中 碧都
(甲府北中出身)



美術部門(美術部)
3年 古屋 すずの
(梨大附属中出身)



将棋部門(将棋部)
3年 西川 シュリ
(双葉中出身)



書道部門(書道部)
3年 大関 悠吾
(竜王北中出身)

全国高等学校総合体育大会



卓球部門(卓球部)
3年 平野 亜子
(田富中出身)

全国インターハイ四国大会卓球部門女子が、愛媛県宇和島市で行われました。卓球部3年の平野亜子さんがベスト32に入りました。



校長 初鹿野 仁

文理を融合した感覚

英国の文芸批評家・詩人ウィリアム・エンブソンは、もともとはケンブリッジ大学で数学を専攻し、後に英文学に転向、弱冠22歳で書き上げた評論は、英文学界に大きな影響を与えました。最近でよく知られているところでは、ドイツの前首相アンゲラ・メルケルは、もともとは物理学者です。このように、文系、理系の枠を超えて活躍する人材は、世界には数多く存在しています。

日本トップの理工系大学である東京工業大学は2011年に、現在の「リベラルアーツ研究教育院」の前身となる「リベラルアーツセンター」を設置しました。新型コロナウイルス感染拡大への対応からも明らかなように、科学技術の進歩した現在、リーダーには理系的素養が求められています。にもかかわらず、日本のリーダーには理系出身の人材が見当たらないことについて、ジャーナリストの池上彰氏は、その要因を文系と理系の知の分断に求めています。さらに、これら二つの領域を結びつけるものとして、蓄積した多様な知識を運用する力としての「教養」を強調しています。

日本では高校時代に文系と理系に分かれますが、それは便宜上のことであり、当然のことながら、知の世界に境界線などは存在しません。しかしながら、文系、理系という枠組みは、思いのほか私たちの思考を支配し、例えば、自らを文系人間、理系人間に分ける知の分断が生じています。この分断を解決するために、東京工業大学はリベラルアーツセンターを設置し、その立ち上げに関わったのが池上氏でした。改組後のリベラルアーツ研究教育院のHPでは、現代社会が抱える諸問題は科学技術だけで解決できるものではなく、私たち人間の「心」のあり方、「社会」のあり方を意識することが重要であると説かれています。そして、理工系専門知識を補う文系知の提供を通して、深い教養と豊かなコミュニケーション力の育成が謳われています。

5教科を満遍なく勉強し入学してくる西高生は、この文理分断の問題を克服する資質を十分に備えており、国公立大学を目指す仲間が多い西高での学びは、まさに文理を融合した感覚を獲得するための基盤となるものです。最終的な進路選択はともかく、そこまで文系を偏りなく学んでいることが重要であり、西高生こそ、自由に知識を運用する「教養」と文理融合の知を獲得することができるものと確信しています。そして、近い将来、西高での学びをもとに、文理を融合した優れた感覚を持ち合わせた人材が数多く誕生することを期待しています。

探究活動：ヤマザキマリ先生による講演会(10月18日)～実りある時間～



ヤマザキマリ先生

漫画家・随筆家・画家として活動
代表作品：『テルマエ・ロマエ』
2010年 マンガ大賞受賞
第14回手塚治虫文化賞短編賞受賞
2012年 アニメ化・映画化



『テルマエ・ロマエ』
原作：ヤマザキマリ「テルマエ・ロマエ」
(KADOKAWAエンターブレイン刊)
監督：武内英樹
脚本：武藤将吾
(C)2012「テルマエ・ロマエ」製作委員会

先生のお話を聞いて、「価値基準の違う共生」という言葉が印象に残っています。周りの目を気にする前に自分の選びたいものを追って、妥協せずに生きていこうと思いました。自分の知らない環境に身を投じながらも自分らしい生き方を追求するマリ先生の生き方はとても魅力的でした。私自身、今よりもっと広い視野で世界を見て、挑戦しながら個性を磨き、「決めつけ」の前に、知ることから始めようと思いました。貴重なお話を下さったヤマザキマリ先生に感謝申し上げます。

2年 辻 寛菜(甲府西中出身)



国際バカロレア (IB) の教育



IBの使命
IB mission statement

国際バカロレア (IB) は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探求心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。

1年次IB体験授業の様子

2年次IB生
「TOK知の理論」
展示



3年次IB生
「Visual Arts」
作品展示



2年次IB生「CAS」の紹介

「CAS」はどんな活動ですか

Creativity (芸術など) Activity (身体的活動) Service (ボランティア) の分野で、関心がある活動を自分で計画して行う体験的な学習です。自己を知り自己を深める良い学びとなります。

2年 青嶋 紗英(北西中出身)

「CAS」でどのようなことをしましたか

中学生に西高とIBを知ってほしいという思いから、学校紹介動画制作を企画しました。西高の魅力を出し合い、撮影・編集の全てを私たちの手で行いました。

2年 見代 遥花(田富中出身)

「CAS」から学んだことはなんですか

自分と向き合い、仲間と協力して、新たな挑戦に取り組む、一歩踏み出す力が大切だと学びました。新たなスキルを身に付け、グローバルな視野で考えると共にActionを起こせる人になりたいです。

2年 谷古宇 愛麗(笛川中出身)

「CAS」で今後どんなことに挑戦したいですか

英語ディベートの練習会や体験会の開催、また誰かの役に立てるような「真のニーズ」のある企画をしたいです。

2年 萩原 ののか(玉幡中出身)



動画はQRコードより
視聴することができます

※UTY「バク烈!ハイスクール」で放送されました



Kofu Nishi
High School

山梨県立甲府西高等学校

〒400-0064 山梨県甲府市下飯田4丁目1-1
TEL:055-228-5161 FAX:055-228-5164
URL <http://www.nishi.kai.ed.jp/>

発行日/2022.11 編集/広報委員会



*stage /steɪdʒ/

[[「立っている場所」が原義] — ㊦ ㊧ ~s/-ɪz / ㊨

1 舞台、ステージ(◆世界の象徴)

2 [活動の]舞台、場所[for, of]

3 (発達・発展などの)段階、時期

用例) 1 N-stage 西高生の時代(時期)

2 N-stage 西高生の活動舞台